

[担当教員]

山崎寿一(教授) 近藤民代(准教授) 山口秀文(助教)  
島田陽(島田陽建築設計事務所) 山隈直人(kt 一級建築士事務所)  
[Teaching Assistant]

岡実侑(A65) 加藤駿吾(A65) 松井智美(A65)

住宅課題：開かれた家

設計課題のテーマは「開かれた家」とする。住宅は家族だけで住み、生活をするだけの器なのか。従来型の住宅パラダイムにとらわれない新しい住宅を構想して提案してほしい。コミュニティカフェを併設した住宅、ワークスペースを備えた住宅、他者と住まうシェアハウジング(但し、家主が居住していること)など、社会や地域への開き方を各自で想定する。居住者構成やライフスタイルは設計条件として、各自が具体的に設定する。

■居住者構成とライフスタイル等の基本要件

居住者構成、居住者のライフスタイル、住宅設計の基本条件は各自で設定する。単身や親族以外のお同居も可とする。居住者構成とライフスタイルに応じた空間構成や周辺環境を活かした設計を行う。

■敷地：選択制とする。

敷地 A (160 m2): 八幡神社の南側、参道沿い。  
敷地 B (300 m2): 阪神・淡路大震災土地区画整理事業区域内。北側に六甲道北公園。

■構造・階数

自由に想定してよい。

■用途地域

敷地 A (160 m2): 第1種中高層住居専用地域(建蔽率 60%, 容積率: 200%)

敷地 B (300 m2): 第1種住居地域(建蔽率 60%, 容積率: 200%)

■所要室等

標準家族のための専用住居として必要な室だけに留まらず、家族以外の者による居住や利用等、新たな暮らしへの提案も含むものが望ましい。



課題敷地

■講評会の様子

[OB ゲスト講評者]

板倉浩二(積水ハウス株式会社, En12)



Flame House

樋口敦也

本来、空間を囲って区切る性質をもつフレーム。しかしその硬さの中に、柔軟な連続性を生み出す可能性も持ちうるのではないか。室等の平面計画に依存しないフレーム配置、各々フレーム同士の関係それぞれに持たせた空間的な意味により柔軟な連続性を生み出す。



# PUZZLE

細江寛子

芸術家が集まるシェアハウス。一階部分は、カフェなど地域の人々が気軽に立ち寄れる「ピース」を用意した。また、何も無い空間をあえて用意し、様々な人々が思い思いの「ピース」をはめられるようにした。二階部分では、製作に没頭出来るように独立性を高めた。

## PUZZLE



北側立面図

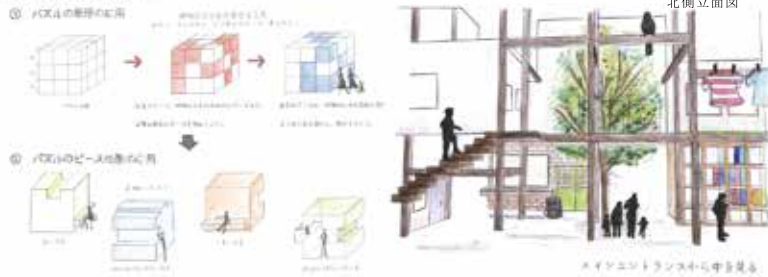


2階平面図



配置図兼1階平面図 1:100

### DIAGRAM



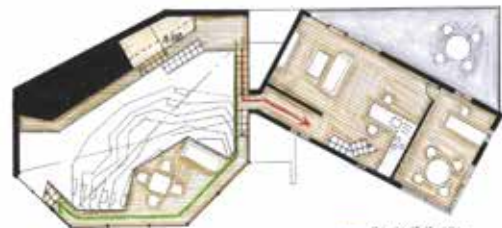
# COMMA HOUSE

YANG YOO GYUNG

本を読むと、‘文章は終わらず’、ちょっと休んでまた文章が続く’コンマの機能が目立つ。コンマは忙しい日常を過ごす現代人に最も必要である。このコンマの機能を設計に反映して人が本を読んで他の人たちと交流しながらちょっと休んで行く家をコンセプトとした。



## COMMA HOUSE



2階平面図

居住者の移動経路  
VISUALの4角対角経路

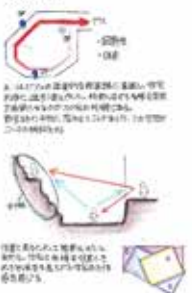


1階平面図



A-K断面図

### DIAGRAM



1階ピース（読書空間）